

平成 26 年 12 月 31 日

統計トピックスNo. 85

ひっじ  
「未成年生まれ」と「新成人」の人口  
— 平成27年 新年にちなんで —

ひっじ  
未成年生まれは 1007 万人  
新成人は 126 万人

総務省統計局では、新年を迎えるに当たり、平成27年1月1日現在における  
ひっじ  
「未成年生まれ」の人口と「新成人」の人口を推計しました。

要 約

I 未成年生まれの人口は1007万人

- 男性は488万人，女性は519万人
- 昭和42年生まれが最も多い
- 十二支の中では9番目

II 新成人人口は126万人

- 新成人人口は126万人，前年比 5 万人増  
男性は65万人，女性は61万人
- 新成人人口は21年ぶりに増加

# I <sup>ひつじ</sup> 未年生まれの人口は1007万人

**男性は488万人，女性は519万人**

平成27年1月1日現在における <sup>ひつじ</sup> 未年生まれの人口は1007万人で，総人口1億2702万人に占める割合は7.9%となっています。

男女別にみると，男性は488万人，女性は519万人で，女性が男性より31万人多くなっています。 (表1，表2)

**昭和42年生まれが最も多い**

<sup>ひつじ</sup> 未年生まれの人口を出生年別にみると，昭和42年生まれ（平成27年に48歳になる人）が188万人と最も多く，次いで昭和18年生まれ（同72歳になる人）が164万人，昭和54年生まれ（同36歳になる人）が160万人，昭和30年生まれ（同60歳になる人）が158万人，平成3年生まれ（同24歳になる人）が124万人，平成15年生まれ（同12歳になる人）が111万人などとなっています。 (表2，図2)

**十二支の中では9番目**

総人口を十二支別にみると，<sup>うし</sup> 丑年生まれが1122万人で最も多く，<sup>ね</sup> 子年（1105万人），<sup>み</sup> 巳年（1103万人）と続いており，<sup>ひつじ</sup> 未年生まれは9番目となっています。 (表1，図1)

表1 十二支別人口

十二支	人口 (万人)	総人口に 占める割合 (%)	人口 順位
総数	12702	100.0	—
子(ね)	1105	8.7	2
丑(うし)	1122	8.8	1
寅(とら)	1089	8.6	6
卯(う)	1073	8.4	7
辰(たつ)	1095	8.6	4
巳(み)	1103	8.7	3
午(うま)	1051	8.3	8
未(ひつじ)	1007	7.9	9
申(さる)	1001	7.9	11
酉(とり)	961	7.6	12
戌(いぬ)	1003	7.9	10
亥(い)	1092	8.6	5

図1 十二支別人口

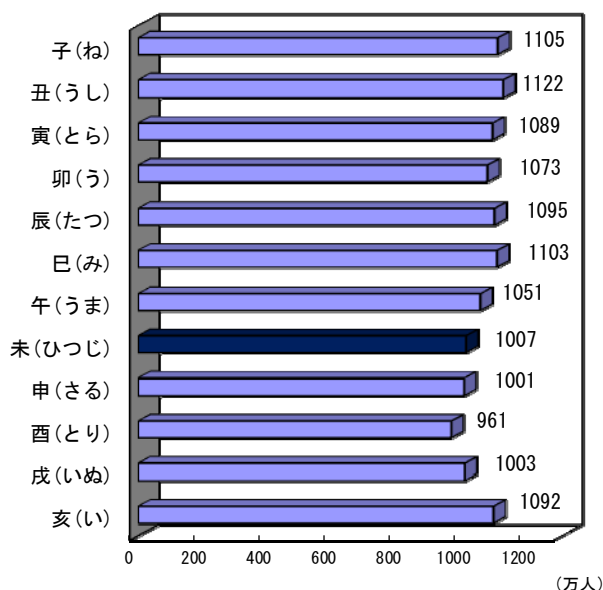


図2 男女、出生年別 未<sup>ひっじ</sup>年生まれの人口

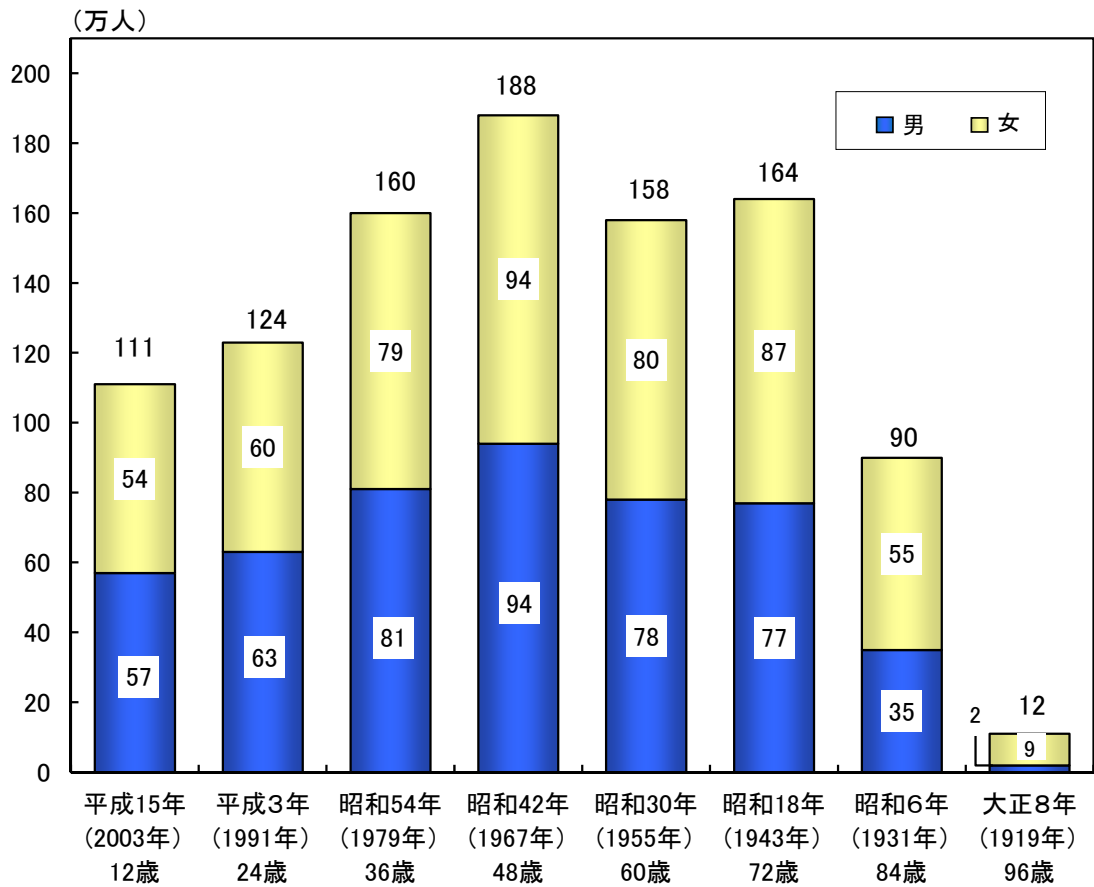


表2 男女、出生年別 未<sup>ひっじ</sup>年生まれの人口

生まれた年・年齢		男女計 (万人)	総数に占める割合 (%)	男 (万人)	総数に占める割合 (%)	女 (万人)	総数に占める割合 (%)
総数	—	1007	100.0	488	100.0	519	100.0
平成15年 (2003年)	12歳	111	11.1	57	11.7	54	10.5
平成3年 (1991年)	24歳	124	12.3	63	13.0	60	11.6
昭和54年 (1979年)	36歳	160	15.9	81	16.6	79	15.2
昭和42年 (1967年)	48歳	188	18.7	94	19.3	94	18.1
昭和30年 (1955年)	60歳	158	15.7	78	16.0	80	15.4
昭和18年 (1943年)	72歳	164	16.3	77	15.7	87	16.8
昭和6年 (1931年)	84歳	90	9.0	35	7.2	55	10.7
大正8年 (1919年)	96歳	12	1.2	2	0.5	9	1.8

- \* 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
- \* 割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。
- \* 図及び表中の年齢は、平成27年に誕生日を迎えた時の年齢
- \* 十二支別人口は、1月1日現在の推計のため、平成27年生まれ<sup>ひっじ</sup>の未<sup>ひっじ</sup>年の人は含まれない。

## II 新成人人口は126万人

新成人人口は126万人で前年比5万人増  
男性は65万人、女性は61万人

この1年間（平成26年1月～12月）に、新たに成人に達した人口（平成27年1月1日現在20歳の人口）は126万人で、前年と比べると5万人の増加となっています。

男女別にみると、男性は65万人、女性は61万人で、男性が女性より4万人多く、女性100人に対する男性の数（人口性比）は105.5となっています。（表3、図3）

### 新成人人口は21年ぶりに増加

新成人人口について、この推計を開始した昭和43年からの推移をみると、第1次ベビーブーム（昭和22年～24年）世代の昭和24年生まれの人が成人に達した45年が246万人で最も多くなった後、減少に転じ、53年には152万人となりました。その後、昭和50年代後半から再び増加傾向を続け、第2次ベビーブーム（昭和46年～49年）世代の人が成人に達した時に200万人台（最多は平成6年207万人）となった後、平成7年に再び減少に転じて以降は減少傾向を続けていました。

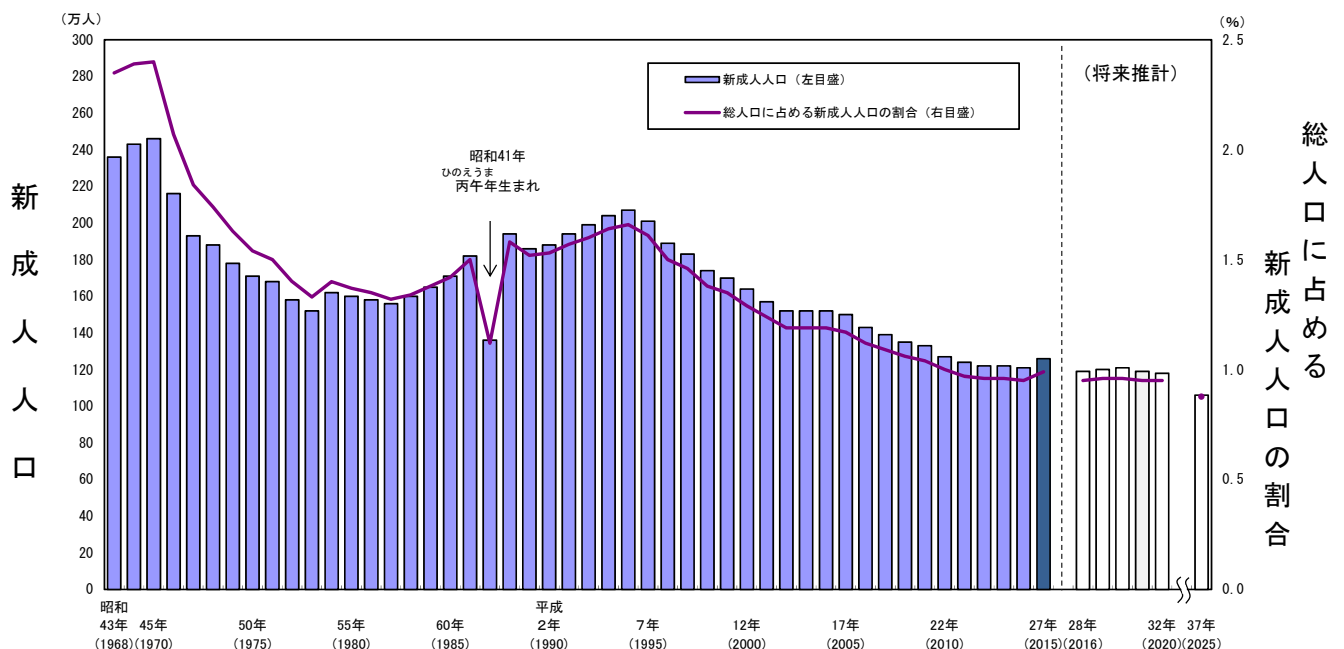
表3 新成人人口の推移

年次（西暦）	新成人人口 （万人）			総人口に 占める 割合（%）	人口性比	年次（西暦）	新成人人口 （万人）			総人口に 占める 割合（%）	人口性比
	男女計	男	女				男女計	男	女		
昭和43年（1968）	236	119	117	2.35	101.6	平成8年（1996）	189	97	92	1.50	105.3
44（1969）	243	123	121	2.39	101.9	9（1997）	183	94	89	1.46	104.7
45（1970）	246	124	123	2.40	101.0	10（1998）	174	89	85	1.38	105.0
46（1971）	216	110	106	2.07	103.9	11（1999）	170	87	83	1.35	105.2
47（1972）	193	98	96	1.84	102.0	12（2000）	164	84	80	1.29	105.4
48（1973）	188	94	94	1.74	100.8	13（2001）	157	81	77	1.24	105.3
49（1974）	178	89	89	1.63	100.6	14（2002）	152	78	74	1.19	104.7
50（1975）	171	87	84	1.54	103.6	15（2003）	152	77	74	1.19	104.7
51（1976）	168	86	83	1.50	103.7	16（2004）	152	78	74	1.19	104.7
52（1977）	158	81	77	1.40	104.5	17（2005）	150	77	73	1.17	104.9
53（1978）	152	77	75	1.33	102.8	18（2006）	143	73	70	1.12	105.0
54（1979）	162	82	80	1.40	103.3	19（2007）	139	72	67	1.09	106.4
55（1980）	160	81	78	1.37	103.9	20（2008）	135	69	66	1.06	105.2
56（1981）	158	81	78	1.35	104.3	21（2009）	133	68	65	1.04	104.9
57（1982）	156	80	76	1.32	104.5	22（2010）	127	65	62	1.00	104.7
58（1983）	160	81	78	1.34	104.2	23（2011）	124	63	61	0.97	104.2
59（1984）	165	84	81	1.38	104.3	24（2012）	122	62	60	0.96	104.9
60（1985）	171	87	83	1.42	104.8	25（2013）	122	63	59	0.96	105.4
61（1986）	182	93	89	1.50	104.2	26（2014）	121	62	59	0.95	105.1
62（1987）	136	70	66	1.12	105.7	27（2015）	126	65	61	0.99	105.5
63（1988）	194	99	95	1.58	103.9						
64・平成元年（1989）	186	96	91	1.52	105.3	28（2016）	119	61	58	0.95	104.6
2（1990）	188	97	92	1.53	105.5	29（2017）	120	61	59	0.96	104.2
3（1991）	194	99	94	1.57	105.4	30（2018）	121	62	59	0.96	104.4
4（1992）	199	101	97	1.60	104.2	31（2019）	119	61	58	0.95	104.4
5（1993）	204	104	99	1.64	105.0	32（2020）	118	61	58	0.95	105.0
6（1994）	207	106	101	1.66	105.0						
7（1995）	201	103	98	1.61	105.6	37（2025）	106	54	52	0.88	104.3

平成27年の新成人人口は126万人、総人口に占める割合は0.99%となり、前年と比べると、5万人、0.04ポイント増となり、21年ぶりに増加となりました。これは、平成27年の新成人人口の出生年である6年の出生数が、5年に比べ増加したためであり、第2次ベビーブーム世代の人が親になる年齢に達し始めたことの影響などによるものと考えられます。

平成27年の新成人人口は増加したものの、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後の新成人人口は、微増微減しながら減少傾向で推移し、37年には110万人を下回ると見込まれています。(表3、図3)

図3 新成人人口及び総人口に占める割合の推移



- \* 昭和43年～平成27年までは「人口推計」(各年1月1日現在)
- \* 平成28年以降は「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」出生(中位)死亡(中位)推計(国立社会保障・人口問題研究所)から作成(各年10月1日現在)
- \* 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
- \* 割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。

※ 人口推計は、国勢調査による人口を基に、その後の人口動向を他の人口関連資料から得て算出している。

- ◆ 「人口推計」の詳しい結果を御覧になる場合は、次の URL を参照ください。

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.htm>

人口推計

検索


- ◆ このトピックスは、次の URL から御覧になれます。

<http://www.stat.go.jp/data/topics/index.htm>

- ◆ このトピックスに掲載されている解説文、図等の情報を引用・転載する場合には、出典の表記をお願いします。

(例) 「統計トピックス No.85」(総務省統計局)

**【問合せ先】**  
総務省統計局 統計調査部 国勢統計課 人口推計係  
〒162-8668 東京都新宿区若松町19番1号  
TEL : 03(5273)1009  
FAX : 03(5273)1552  
Eメール : c-suikei@soumu.go.jp



総務省統計局  
Statistics Bureau,  
Ministry of Internal Affairs  
and Communications